

(1) 観光施策の戦略的推進

方向性	淀川上流域も含めた舟運など、観光資源を生かしながら、市民が愛着を持ち、多くの人が訪れたいと思える魅力的なまちづくりを進めるため、平成29年度に策定した「観光施策に関する考え方」に基づき、公民連携で役割分担をしながら、マーケティング手法を取り入れた観光施策を戦略的に進め、東京オリンピック・パラリンピック、大阪・関西万博等を控え、インバウンドも見据えた交流人口の拡大を図ります。
取り組み	民間事業者など幅広い関係機関との意見交換の場において、市で収集した観光に関する基本データを共有し、公民連携による戦略的な観光地域づくりの方向性を検討します。また、魅力あるコンテンツの創出及び情報発信力の強化に向け、マーケティングの観点から消費動向や動態データなどを継続的に収集・分析し、魅力ある観光資源の創出や公民連携による観光冊子を作成するとともに、インバウンドを含む交流人口の増加につながる効果的な新たな情報発信の手法について検討を進めます。 ≪目標値≫定期利用者数を除いた市内主要駅の乗降客数の増加：年間約8千人増 平成31年度当初予算：3,400千円

9月末の
進捗状況
【〇】

観光地域づくりの方向性については、現在交通事業者や金融機関等民間事業者など幅広い関係機関との意見交換の実施に向けて準備を進めており、今年度中に、大阪観光局と連携したインバウンド向けの体験コンテンツの整備などを含め、取り組みを行います。観光冊子については、読者アンケートや掲載店等からの情報の収集・分析を行い、上半期で2回発行しました。また、部の若手職員で新たに立ち上げた情報発信ワーキンググループで、市ホームページの観光コンテンツの拡充に取り組んでいます。

(2) 新たな事業者等への支援

方向性	主体的に活性化に取り組む商店街等を支援する、「商店街等活性化促進事業」を、引き続き実施するとともに、市内で創業を目指す方の裾野を広げるため、個人で販売を行っている方が、新たに起業できるよう、創業支援の充実を図ります。 また、市内商業の振興に向けて、空き店舗の活用につながるセミナー事業を充実します。
取り組み	「商店街等活性化促進事業」における“空き店舗活用事業”のさらなる活用促進を図るため、事業のPR等を行います。また、地域活性化支援センターにおいて取り組んでいる、創業・経営に関する相談や、商店街活性化セミナー等を精査し、効果的

	<p>な支援につながるよう、より一層、ニーズの把握に努め、各種事業を実施します。併せて、創業を志す時期から創業後のフォローまで一貫した支援に取り組むとともに、市内商店街等で創業を志すきっかけとなる事業を、新たな視点で行います。起業家への支援活動における、他市の先進事例等を調査し、本施策の拡充、事業間連携の可能性等について検討を行います。</p>
	<p>平成 31 年度当初予算： 44,500 千円</p>

<p>9 月末の 進捗状況 【○】</p>	<p>空き店舗活用事業の PR の一環として、4 月に市内商店街に直接案内文を送付しており、今後、枚方市立地域活性化支援センターのアドバイザーが市内商店街訪問時において、各事業の PR を予定しています。枚方市立地域活性化支援センターに対するニーズの把握については、事業者からの相談時でのニーズの掘り起こしや、セミナー時にアンケートを取得する等行っており、これらのニーズを反映した商店街活性化セミナーを来年 2 月の開催に向けて準備を進めています。</p> <p>また、起業家への支援活動における、他市の先進事例については、今年度内に調査完了の予定です。</p>
--------------------------------------	---

(3) さらなる賑わいの創出に向けた地域資源の情報発信	
<p>方向性</p>	<p>「七夕伝説」をはじめ、「枚方宿」「舟運」といった本市の地域資源の魅力の紹介や各種イベント開催などの情報発信の取り組みを進めることで、市内外からの交流促進、賑わい創出につなげます。特に「七夕伝説」についてはより一層認知を広めるため、重点的に PR に取り組みます。</p>
<p>取り組み</p>	<p>「七夕伝説」ゆかりのまちを市内外に PR するため、「七夕」を発信するイベント開催などの取り組みを公民連携で進めながら、本市における「七夕」に関する伝承など様々な情報を通年発信していきます。また、枚方宿地区まちづくり協議会の活動を活かした街並みの形成を促進する取り組みや、賑わいづくりに向けた活動を支援するとともに、「枚方宿」の魅力を広く紹介する情報発信を進めます。「こうした地域資源の発信力を高めることで、まちの交流促進と賑わいの創出につなげていきます。</p>
	<p>平成 31 年度当初予算： 2,050 千円</p>

<p>9月末の 進捗状況 【○】</p>	<p>「七夕伝説」ゆかりのまちをPRするため、夏の七夕イベントとして「七夕ジャンボ笹飾り」を実施しました。市内の保育所や小学校の子どもたちをはじめ市民からの願い短冊で飾られた8メートル級のジャンボ笹と市民団体との協働で制作した竹灯りを設置し、ライトアップ。これにあわせてコンサートや「七夕物語」の上映を行いました。また、産学公協働の枚方・交野天の川ツーリズム推進協議会では、「七夕」ゆかりの解説やスポットなどをデザインしたクリアファイルを作成し、様々なイベントで広く配布するなどPRに取り組みました。</p> <p>枚方宿地区まちづくり協議会が初めて取り組んだ枚方宿くらわんか五六市（夕市）「五六のあかり」の竹灯籠（約200個）の制作に際し、産学公の連携による支援を行い、約5,000人の賑わい創出につなげました。今後も、観光ホームページの開設など「枚方宿」の魅力を広く発信する取り組みを進めていきます。</p>
-------------------------------------	--

(4) 農業の魅力や楽しさを発信	
方向性	農業に関心のあるシルバー世代（アクティブシニア）を主たる対象とした体験型農園での有機野菜づくりを通じて、農業の魅力や楽しさを発信し、農業の新たな担い手の育成につなげます。
取り組み	パイロット事業「ちょっと本気の野菜づくり講座」を昨年度より期間を延長して実施し、より一層の参加を募るため、後期（半期分）からの追加募集も行います。また、2カ年の実績を検証した上で令和2年度（2020年度）からの本格実施を目指し、併せて終了生がグループで農地を借りて、営農できる仕組みも検討し、遊休農地の利活用に繋げます。

<p>9月末の 進捗状況 【○】</p>	<p>平成30年度に引き続き、農業に関心のある市民に体験型市民農園での野菜づくりに親んでもらうパイロット事業（ちょっと本気の野菜づくり講座）を4月から実施しています。参加者共同の作業など仲間づくりにつながるメニューも実施しており、「グループ営農」による農地の貸出について、検討を進めています。なお、後期（半期分）からの追加募集については、今回の講座内容では現受講者と習熟度の差など課題が生じることから行わず、来年度からは半期受け入れができるように講座内容の見直しを行います。</p>
-------------------------------------	---

(5) 特産物の創出と6次産業化

方向性	さらなる都市農業の活性化を図るため、特産物（農産物）の創出と、商工業者との連携による6次産業化を進めます。
取り組み	<p>農業特産物の取り組みと販路の拡大</p> <p>枚方の土壌に適した特産物の品目・品種を大阪エコ農産物の基準で選定し、市内生産者団体の協力を得ながら、試験栽培に取り組み、併せて6次産業も視野に商工業者等とも連携した販路の拡大にも取り組みます。</p> <p>6次産業化の取り組み</p> <p>農業者と商工業者とのマッチングの機会を設け、地産地消を推進します。</p> <p>なお、昨年度に6次産業化を進めたモデル事例の枚方産さつまいも鯛焼きについては、サツマイモを倍増するとともに、収穫体験の機会を設けるなど商品化のPR強化に繋がります。</p>

<p>9月末の進捗状況</p> <p>【〇】</p>	<p>農業特産物の創出に向けた第一段の取り組みとして、市内生産者団体9団体32農家の協力を得て、令和元年9月から令和2年5月の期間でタマネギの試験栽培に取り組みしており、現在、苗の育成中です。</p> <p>6次産業化の取り組みの枚方産さつまいも鯛焼きについては、昨年度の実績600袋に対して、今年度は3,000袋を予定しており、10月にはサツマイモの収穫を予定しています。また、枚方産タマネギを使用した枚方ビールカレーの開発にも取り組みしており、来年度内の販売に向けて準備を進めています。</p>
--	---

(6) 枚方市総合文化芸術センターの整備

方向性	<p>多彩な文化芸術の鑑賞をはじめ、市民の創作活動の発表機会を促進し、集客と賑わいを創出する文化芸術の拠点施設となる枚方市総合文化芸術センターの整備を令和3年度（2021年度）の開館を目指して着実に進めます。</p> <p>また、枚方市総合文化芸術センターの利用規則を定め、運営事業者の選定に着手します。</p>
取り組み	<p>昨年10月に着工した枚方市総合文化芸術センターの整備を着実に進めていくとともに、メセナひらかた会館を枚方市総合文化芸術センターの別館として一体的な運営を行っていくための改修設計を行います。</p> <p>また、枚方市総合文化芸術センターの休館日や開館時間、使用料などを条例で定め、同センターを運営する事業者の業務内容を決定し、公募による選定を開始します。</p> <p>平成31年度当初予算：2,472,962千円</p>

9月末の 進捗状況 【△】	<p>枚方市総合文化芸術センターは、令和3年3月の完了予定を目指して工事を進めています。メセナひらかた会館の改修設計は令和2年度に実施する予定です。</p> <p>今後、休館日や使用料を含む枚方市総合文化芸術センター条例の改正案を令和元年12月定例会に提出し、令和2年1月から、指定管理者の公募による選定を開始する予定です。</p>
------------------------------	--

(7) 文化芸術の拠点形成に向けた取り組み	
方向性	<p>枚方市総合文化芸術センターの開館への機運を高めるため、開館プレ事業を展開し、文化芸術の拠点形成に向けた土壌づくりを行います。</p> <p>また、「枚方市文化芸術振興計画」に基づき、子どもや若い世代の文化芸術活動の充実を図り、本市における文化芸術の裾野を広げます。</p>
取り組み	<p>文化芸術の拠点形成に向けた機運を高めていくため、平田オリザ氏をはじめとする4人の文化芸術アドバイザーによるワークショップなどを実施するとともに、連携協定を締結した大阪フィルハーモニー交響楽団による芸術公演の鑑賞機会の提供や市内中学生を対象にオーケストラ鑑賞の機会の提供を行うなど、文化芸術事業の充実を図ります。</p> <p>また、本市ゆかりの若手芸術家による「枚方市アーティストバンク」を設置し、実力ある若手芸術家を発掘するとともに、小学校等へのアウトリーチや市主催支援事業「アート・スプラウト」に出演していただくことで、芸術家の支援と文化芸術に触れる機会の充実に努めます。</p> <p>平成31年度当初予算：21,003千円</p>

9月末の 進捗状況 【○】	<p>4人の文化芸術アドバイザーによるワークショップや大阪フィルハーモニー交響楽団による芸術公演の鑑賞機会を計画どおり提供します。また、令和元年9月5日に、本市で初めての取り組みとなる中学生対象のオーケストラ鑑賞会を実施しました。</p> <p>「枚方市アーティストバンク」を設置し、枚方ゆかりの実力ある若手芸術家に発表の機会をつくる「アート・スプラウト」を1回主催しました。今後、「アート・スプラウト」を4回開催するほか、小学校と福祉施設、病院の計20か所でアウトリーチ事業を実施します。</p>
------------------------------	---

(8) プレミアム付商品券事業

方向性	市内商店等において使用できる低所得者・子育て世帯向けのプレミアム付商品券を発行し、消費税・地方消費税の引上げが低所得者・子育て世帯の消費に与える影響を緩和するとともに、地域における消費を喚起・下支えします。
取り組み	国のプレミアム付商品券事業実施要領に基づき、6月から9月にかけて商品券発行に係る各種の取り組みを進め、9月24日から本庁舎及び支所等において「枚方市プレミアム付商品券」の販売を行います。(商品券は10月1日より使用開始) 《目標値》 商品券取扱店舗：1,000店 ※幅広く参加店舗を公募 平成31年度当初予算：660,890千円

9月末の 進捗状況 【〇】

6月28日以降、低所得者分対象者59,164人に商品券購入引換券交付申請書を送付しました。7月1日から申請受付を開始し、審査のうえ9月19日以降、該当者15,462人に購入引換券を送付するとともに、子育て世帯主9,390人に購入引換券を送付しました。

今回のプレミアム付商品券は、購入引換券1枚につき最大5冊まで購入でき、1冊5,000円分(500円券10枚つづり)を4,000円で販売しています。

9月24日から市役所本館及び支所等において販売を開始し、20,920冊(売上金額83,680千円)を販売しました。

商品券取扱店舗については、7月1日から公募により登録申込を開始し、市内商店等957店(目標達成率95.7%)を登録しました。